

昨年度母校は、六月二十三日に西本願寺・大谷光淳 第二十五代「門主様をお迎えしての創立二〇周年記念式典をはじめとして、十月、アメリカの合唱団「One Voice Kids」と本学園高校コーラス部のコラボコンサートを、精華会(中高同窓会)、紫友会後援にてサンパレスで公演。十一月、二〇周年より継続の北部九州真宗文化財調査研究での「新発見、博多万行寺屏風から見えてくること」講演会、二月の追悼会まで二〇周年の催しが多彩に開催されました。

心機転、平成三十年度、第歩の踏み出しです。今年の「紫友」テーマは「これぞ、筑女魂」です。お寄せ頂いた先生、皆様方の原稿は、正に筑女生の魂に響くものばかり。乞う期待です。

一般に同窓会と云うのは、同じ学校、同じ師に学んだ学生の積み重ねですが、「紫友会」の横(同級生)のみならず、縦(同窓会)の繋がりが深いのは、建学の精神である「仏の教え」を根幹に、筑女で過ごす事で培ってきた精神があつてこそだと思います。「筑女魂」を胸に誇りを持って、より強固で、それでいて、しなやかな絆として行きましよう。

さて、昨年触れしました、理事会の紛糾についてですが、現在は、袖山眞乘理事長の下、理事会も正常化の運びとなりました。今後、筑紫女学園の発展を期待し、「紫友会」として出来る限りご協力させて頂きます。

永らく紫友会顧問を務めて頂いた中川正法先生が、平成二十九年六月二十日付けで学長に就任されました。中川先生の学長就任に伴い、紫友会顧問後任に、平成三十年度より、栗山俊之先生にお願い致しました。どうぞよろしくお願い致します。



筑紫女学園大学 同窓会
紫友会 会長
石川 昭子

「筑女魂」を胸に・・・



題字 本学園元顧問
故 干潟 龍祥先生書



筑紫女学園大学
同窓会

紫友会事務局

〒818-0192
太宰府市石坂2丁目12-1
筑紫女学園大学内
飛翔会館2F
TEL&FAX (092-929-4603)
〔月～金 10:00～16:00〕
印刷(有)森田印刷所

たとひ正義たりとも



学校法人 筑紫女学園
理事長
袖山 眞乘

人は自分が正義だと思ったら、どんな残酷なことで平気です。

戦争の残虐行為をする兵隊も、近くは山ゆり園の殺人犯もそうでしょう。

正義と言うけれど、時代や場所、環境が変われば正義も悪となる。ましてや人によっても、その価値判断はわかれる。

一番難しい人は、ものごと道理がわかっていて、思っている人だ。わかっていると思っている人は、かならず他の人を裁く。

わかっていると思いは、そこで考えが止まってしまい、前に進もうとはしない。

それが固定観念を生み出し、思い込みや決めつけをして、自分の思いに固執する。

およそ人間関係に苦しむ人には、これが多い。つまりは聞く耳がないからだろう。

しかしながら、話すことも聞くことも難しい。伝えること、伝えることは難中の難だ。

それは私は私のことを知っている。わかったことにしているからだ。果してそうか。

自分で自分は反省できない。すれば言い訳と弁解しか出て来ない。

私のことは教えてもらわないとわからない。

そこに佛さまに聞くと、言つてが生じてくる。私を聞いて私を知らされる。それが佛さまの教えの第一歩となる。吟味の生活が始まる。そこに人生を豊かにし、生きる情熱と使命を与えられ、人生が道となる。

第51回紫友会総会御案内

日時／6月9日(土) 11:00～15:00
【受付開始時間10:30～】

場所／筑紫女学園大学 飛翔会館
太宰府市石坂2-12-1
3Fスクウェアヴィアホール・1F学生ホール

会費／3,000円 新卒会員1,000円

第一部／総会 11:00～11:30
会計報告・事業報告・その他

第二部／演奏会 11:45～12:45
筑紫女学園大学フィルハーモニー管弦楽団



2003年10月6日に同好会として発足、2006年にサークルに昇格、今年で創立15年を迎えた筑紫女学園大学のオーケストラサークル。
主な活動:定期演奏会、入学式・卒業式での演奏、学園祭でのコンサート、福祉施設「太宰府 古都の光」などへ出向いての依頼演奏など。

第三部／懇親会パーティ 会食13:10～15:00

●締切日(5/15)以降の申し込みおよび変更は紫友会迄
(TEL&FAX092-929-4603)
出席申込を頂いた方で当日連絡なく欠席の場合は、恐れ入りますが後日紫友会宛に会費をお振込み下さい。

出席予定の先生方 (敬称略) 2月末現在の出席予定

理事長 袖山 眞乗	学 長 中川 正法
副学長 渡辺 守雄	副学長 荒巻 龍也
人間科学部長 古賀野 卓	事務局長 西村 慎一
現教員 小野 望	高山百合子 小林 知美
浅田 淳一	徳永 勇 大西 良
藤原 隆信	速水 良晃 栗山 俊之
旧教員 名本 幹雄	石橋美恵子 恵利 勝縁
戸丸 敦子	佐伯 蓉子 末次 基洋
永淵 道彦	小川 直樹

*今回当番幹事は短大31回生、大学文学部6、26、27回生、大学人間科学部3、4回生、大学院9、10回生です。
*お車でお越しの方は、学内に駐車できます。
*当日は学内見学が可能です。(10時～16時)
*西鉄電車ご利用の方は、西鉄太宰府駅よりスクールバスを運行しますので、ご利用下さい。(10時～16時ピストン運行)



■振込先
金融機関:ゆうちょ銀行
店 名:一七九(イチナナキユウ)
店 番:179
預金種目:当座預金
口座番号:0044769
口座名義:筑紫女学園大学同窓会紫友会

紫友会事務局だより

第50回紫友会総会報告

第50回紫友会総会は平成29年6月18日(日)ホテルオークラ福岡 平安の間に於いて盛大に開催されました。

当日は、晴天に恵まれ、たくさんの同窓生や同窓教員の皆様にご参集頂きました。

第一部の総会では、各議案が承認され、学生ボランティア活動に対する支援金贈呈式も併せて執り行いました。

第二部は懇親パーティ。着席での美味しいコース料理、そしてジャズバンドによる生歌と生演奏をゆっくりと堪能しながらの楽しい一時を過ごしました。来年もたくさんの同窓生が笑顔で再会出来ることを願いながら第50回の記念すべき紫友会総会は盛会にて終了しました。



ボランティア団体へ目録贈呈



ジャズバンド演奏

●総会議決内容

- ◎第一号議案 平成28年度活動報告
- ◎第二号議案 平成28年度会計報告 及び監査報告
- ◎第三号議案 平成29年度活動計画
- ◎第四号議案 平成29年度予算
- ◎第五号議案 会則の改定

同窓会をしませんか

総会に併せて、クラス会やサークルのOG会、ゼミ同期会などを開きませんか?紙面を利用しての呼びかけや、案内状発送のお手伝いなど致します。ご活用頂き、会員相互の親睦が深まることを期待しています。ご希望がありましたら、ぜひ事務局までご相談ください。

【筑紫女学園報】送付について

学園全体(幼稚園～大学)の様子をお伝えしている学園発行の学園報を希望される方にお配りします。角2封筒(33×24cm位)に送付先の郵便番号・住所・お名前をご記入の上、250円切手を貼り紫友会事務局までご送付下さい。最新号をお送り致します。又は学園ホームページでもご覧頂けます。

<http://www.chikushi.ac.jp/gakuenhou/>

当番幹事について

平成31年、第52回紫友会総会の当番幹事は下記の方々です。

○1998年卒 短大32回生

大学 7回生

○2018年卒 大学文学部27回生

// 人間科学部4回生

大学院 10回生

○2019年卒 新卒幹事

事務局よりご案内のハガキを送付致しますので幹事会にご出席頂きますようお願い致します。

があと
き

今号のテーマ「これぞ、筑女魂」いかがでしたか。
学生時代に筑女で学んだこと、経験したことは何事にも代えがたいものです。
日々激変する社会の中で、女性の力が求められています。会員の皆様が筑女で培った経験を大いに活かして社会で活躍されることを願っております。
さて、今年も6月に総会を開催いたします。今年は大学(太宰府キャンパス)での開催です。普段、母校のことを思い出す機会は少ないと思います。ぜひ、この機会に当時の思い出を先生方や友人と語り合ってみませんか。会員の皆様のお越しをお待ちしております。

お 願 い

卒業時の住所データ及び返信葉書に書かれた住所が会報誌「紫友」 送付の資料となります。個人情報同窓会活動以外では使用致しません。『紫友』が届かない方には、事務局までお知らせ頂きますようお願い致します。

なお、名簿の管理には充分慎重を期しております。紫友会事務局以外から同窓生へ連絡することはありません。



紫友会会計報告

平成28年度決算【一般会計】

自:平成28年4月1日 至:平成29年3月31日

【収入の部】	決算額
前年度繰越金	24,721,442
入会会費 (10,000×604名)	6,040,000
協力費 (321件)	629,000
預金利息	2,403
雑収入	250,000

合 計 31,642,845

【支出の部】	決算額
総会費	1,185,874
印刷製本費	1,224,409
通信費	1,812,334
支払手数料	40,646
会議費	390,293
事務経費	1,919,630
アルバム代	16,000
入学記念品費	345,384
備品費	78,816
慶弔費	371,300
消耗品費	35,454
雑費	68,964
奨学金基金へ繰出	1,000,000
特別会計へ繰出 (110周年事業独立金)	1,000,000
特別会計へ繰出 (母校支援)	1,000,000
次年度繰越金	21,153,741

合 計 31,642,845

平成28年度決算【特別会計】

自:平成28年4月1日 至:平成29年3月31日

【収入の部】	決算額
前年度繰越金	8,338,676
一般会計より繰入 (周年事業独立金)	1,000,000
一般会計より繰入 (母校支援)	1,000,000
周年記念事業協力金 (128件)	272,000
預金利息	1,024

合 計 10,611,700

【支出の部】	決算額
在学生就職活動支援	1,000,162
110周年記念事業	2,233,368
在学生支援 (ボランティア活動へ)	500,054
次年度繰越金	6,878,116

合 計 10,611,700

平成28年度決算【奨学金・奨励金基金】

自:平成28年4月1日 至:平成29年3月31日

【収入の部】	決算額
前年度繰越金	12,792,787
一般会計より繰入	1,000,000
奨学金・奨励金基金 (127件)	509,000
預金利息	1,824

合 計 14,303,611

【支出の部】	決算額
紫友会奨学金・奨励金給付	1,101,350
次年度繰越金	13,202,261

合 計 14,303,611

筑紫女学園大学学長に
紫友会前顧問 中川 正法 先生が
ご就任されました。

(平成二十九年六月二十日付)



筑紫女学園大学
学長
中川 正法 先生

平成十七年より紫友会顧問として、会の運営を見護りながら役員の皆様とともに歩んできましたが、昨年六月に筑紫女学園大学学長に就任し、今後は名誉会長として紫友会に関わることとなりました。卒業生の皆様には、母校の発展のためご支援の程何卒よろしくお願いいたします。

これぞ筑女魂！

筑紫女学園大学インド研修旅行は、平成二十九年年度で二十七回目を迎え、他大学にない本学独自の催しとなっている。私も前回から引率者として参加、その回数も十回を超えた。昨今は、インド経済の急激な発展とともに、交通・宿泊費が高騰。学生の参加も十五人前後となっているが、研修開始当初は三十人を超えることも珍しくなかった。

インド研修に参加したことがきっかけとなり、留学や海外での活動就職へつながった卒業生も少なくない。昨年度、大学院生や仏教専修課程履修生として、本学で再び学ぶ道を選ばれた方の中に、インド研修参加者がおられた。また、インド社会の厳しさに触れ、ボランティア活動に励むようになった学生も多い。インドは、筑女生の「ころ」を揺り動かし、じつとしておれなくなるような不思議な力をもっている。いつの日か、紫友会主催でインド研修ブッダの聖地巡礼の旅が実現し、卒業生の「魂（ころ）」が揺れ動くお姿を、拝見したいと思っている。



凛として、そして、懸命に

文学部・日本語・日本文学科
教授 桐島 薫子 先生



「筑女魂」というテーマを聞き、ふと、本稿の題にした言葉が思い浮かびました。一人の卒業生としての思い出を例にお話します。彼女は教職を希望し、卒業後は非常勤講師をしていましたが、ある年、県の高校の教員採用試験に合格したと報告をくれました。研究室を訪ねたことと、合格を喜び合おうと待っていました。来訪の日、「おめでとう！」と

興奮気味の私。「有り難うございます。」と冷静な彼女。話している内、彼女の訪問の目的は、合格報告だけでなく、非常勤先の生徒のために残りの半年で何ができるのか、その相談であることが分かりました。漢文に興味を持ち始めた生徒、就職する生徒、大学入試を目指し積極的に質問してくる生徒、それぞれの将来を見据え、細やかな配慮をしようと努力する姿は頼もしく、凛としていて、眩しく映りました。他にも、このような印象を与えてくれた多くの卒業生の皆さんがいます。ご縁に感謝しています。

文化財に人の心をみる

文学部・アジア文化学科
准教授 小林 知美 先生



二〇一六年四月より大学では仏教研修生を中心に雅楽同好会を立ち上げました。本学非常勤講師でもあり、宗教教育協力員でもある和田法明先生に協力し、講義の読み方、唱歌、運指、音の出し方など雅楽の基礎を習うことからスタートしました。同好会の創設メンバーは学生六名、教員二名、二〇一七年度からは新たに五名のメンバーが加わり、設立当初は鐘（かね）と呼ばれる横笛を吹けるようにならざることを目標に頑張ってきましたが、二年を経過した今年度からは箏（そう）や笙（しょう）も追加し始めています。

本学の百周年記念として着手された「北部九州真宗文化財調査研究」活動に参加して二年が過ぎました。地域の真宗寺院所蔵の文化財のなかには、江戸時代の藩主や本山と地域寺院とのやりとりを語る歴史的資料もあれば、儒者や画家の手になる作品や住職の学問の足跡を語る書籍などの文化的資料もありました。そこからみえてくるのは近代化をはさんだ激動の時代を生きた人々の心です。

これらの文化財を、学園祭期間に



前後に雅楽の演奏が行われます。特に五月の全学礼拝には、福岡県内の浄土宗宗僧侶の方々と構成された布明と雅楽の会をお招きし、雅楽の演奏が行われています。雅楽同好会メンバーも結成初年度からその中に加えていただき、全学の学生の前で雅楽を演奏してきました。筑紫女学園創立三〇周年の記念行事でも中高の雅楽部と一緒に門主様の前で演奏する機会を得ました。

現代では、神社の神事などで耳にする機会が多いが、神道のイメージが強い雅楽ですが、元々は仏教を通じて大陸から日本に伝えたものです。しかも中国や朝鮮ではすでに廃れてしまったため、古い文化を残しているのは日本だけとされています。そのため、日本の雅楽は世界最古のオーケストラと呼ばれています。仏教系大学である筑紫女学園大学で雅楽同好会が発足したのは、最近のことですが、このまま伝統として百年、二百年、三百年と続いて欲しいと願っています。まだまだ大きな同好会ですが、日本の誇り、大切な文化を後世に伝えていくための助となればと考えています。

筑女生の雰囲気

人間科学部 人間科学心理 社会福祉専攻
教授 浅田 淳一 先生



これは、本学に非常勤講師にいられている体育の先生のお話ですが、その方は数多くの大学に非常勤に行かれたそうですが、自分の姪が大学を選ぶのに際して、強く筑女を勧められたとのことでした。その理由は「筑女の学生は何か他大学にはない特別に温かい雰囲気をもっと出しているから」だそうです。

私自身もその理由はよく分か

受け継がれる筑女の思い

人間科学部 人間科学心理 社会福祉専攻
教授 稲田 八穂 先生



人間形成専攻（現初等教育・保育専攻）が設置されて八年、着実にその力を高めてきました。初等教育コースは教員採用試験に八割近い現役合格、幼保コースは充実した保育の場で、それぞれの夢を叶えています。また、他の道を選択した学生も、将来を見据えて着実に歩んできました。

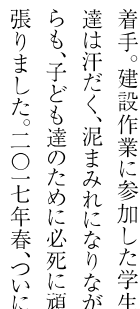
様々な思いを抱いて入学したにも関わらず、毎年のように「筑女

筑女生がネパール大地震の被災地で校舎建設！

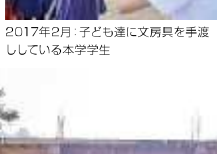
現代社会学部・現代社会学科
教授 藤原 隆信 先生



二〇一五年四月二十五日、世界最貧国の一つであるネパールを大きな地震が襲いました。八千人以上の尊い命が失われ、多くの学校で校舎が倒壊しました。筑女では、震災直後に「ネパール大地震復興教育支援プロジェクト」を立ち上げ、復興支援のための募金活動や現地訪問調査を実施しました。二度の現地調査を踏まえ、二〇一六年夏には震源地ゴルカにあるラムサハ高校で倒壊した校舎の再建に着手。建設作業に参加した学生達は汗だく、泥まみれになりながらも、子ども達のために必死に頑張りました。二〇一七年春、ついに



2016年8月：本学学生が校舎建設に取り組んでいる様子（基礎工事）



2017年2月：筑女が建設したラムサハ高校の新校舎



2015年4月：ネパール地震後の様子



朝日新聞記事（2018年1月10日）筑女のネパール支援

大学開設二年目に入学した私。卒業後、科目履修生として再び学舎に足を踏み入れた時、その「進化」に驚きました。当時、教室は「棟のみ。図書館など短大の施設を利用しながら、それでも揃わない資料は先生方からお借りしての研鑽の日々でした。その分、先生方と親密で、学友共々「私達がこの学校を作り上げていく。」という熱意に溢れていました。まさに「筑女魂」

これぞ、筑女魂！

大学院人間科学部研究科
九回生（二〇一七年修了）飯地 真理子
（筑紫女学園大学三回生 一九九九年卒）



私は筑女の大学院に五十五歳で挑戦し、昨年三月に修了しました。研究テーマは母親のアイデンティティに関するものです。過去に筑女短大の幼児教育科で学びました。幼稚園に五年間勤め、私自身の子育て後二〇一二年にパートタイムで職場復帰をしましたが、バブル崩壊や携帯電話の普及などで、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わって

「感恩」の教えを心に

文学部・日本語・日本文学科
二回生（一九九三年卒）山内 千晶 先生



卒業後、白血病を発症。その後再発するも一命をとりとめ、人生とは、命とはと考えた時、たった四年間学んだたった仏教の教えが私の支えとなりました。乳がんも経験し、現在は「生かされた命の御恩に報いるため、高校に勤務しながら、血液疾患やがん患者の支援活動をライフワークとして」患者を「一人にしない」ために日々奔走しています。「病気になるのも普通に暮らす」社会の実現のため、今後も校訓の二「感恩（報謝）」を心に持ち続けていこうと思っています。



在学生支援

～紫友会学生支援奨学金・奨励金授与～

平成18年度に紫友会学生支援奨学金・奨励金制度が発足されて以来、奨学金は延べ30名の学生に、奨励金は延べ29件の団体に授与することができました。これもひとえに皆様からのご協力の賜物と感謝申し上げます。なお、平成29年度は、奨学金を3名に、奨励金を「フィルハーモニー管弦楽団」「書道部」「ラクロス部」「Little Hands」(ボランティア団体)の4団体に授与いたしました。今後も在学生支援の一環として学生支援奨学金・奨励金制度で支援を必要とする学生に援助が出来ればと願っております。



平成29年6月(前期)
後列向かって左2名「書道部」
右「フィルハーモニー管弦楽団」 各代表



平成29年12月(後期)
後列向かって左「Little Hands」
右「ラクロス部」 各代表

平成29年6月及び12月に紫友会奨励金の授与式が紫友会室にて執り行われました。

この奨励金はクラブ、サークル活動、ボランティア活動など自主的な活動において高い目標、計画を持ち積極的に活動、実現している団体、個人を援助することを目的としています。

奨学金を授与して

人間科学部 人間科学科
三回生(二〇一七年卒)

大学では、社会福祉士や教職(福祉)の資格・学校図書館司書教諭の資格を取得する為日々勉学に励んでいました。しかし、学費の支払いにいつも悩んでいました。アルバイトも資格取得の勉強や教育実習でなかなか時間がとれずあまりできませんでした。その為、退学を考えたこともありました。

今回、紫友会の奨学金を授与されたことは本当に感謝の気持ちで一杯です。奨学金のお蔭で、ゼミの仲間と一緒に実習指導者のフォローアップ研修に参加することができました。そして皆と同じように学業や教育実習に取り組むことができました。

紫友会の方々と私を支えてくれた母への感謝の気持ちを忘れず、今後は国家試験に向けて勉学に励み必ず合格できるように頑張ります。そして、自分の目標を達成し、社会に貢献できるよう努めます。

声 声 声

◆一年に一度の同窓会楽しみにしております。企画をはじめ準備など役員の皆様には感謝です。ありがとうございます。現在、家族や家庭を支援すること女性福祉の視点からの研究をしています。

大学院同生(二〇〇九年卒)

◆紫友を拝見し、橘英哲先生がお変わりなく、大変うれしく、又懐かしくなりました。いつも会報を送って下さりありがとうございます。筑女の楽しい思い出は私の一生の宝です。ご縁のありがたさを感じます。

大学日本語日文学科 同生(一九九三年卒)

紫友37号“こんにちは”の 原稿を募集します。

次号のテーマは「あの時(学生時代)、夢中になっていた」を予定しています。原稿は400字程度。また、皆様の近況や思い出等お寄せ下さい。(写真やイラストも可)寄せられた原稿は原則として、返却しません。紙面都合上、全てを掲載できない場合もありますので、ご了承下さい。(メ切平成30年12月末日)

謹んで豪雨災害のお見舞いを申し上げます

平成29年九州北部豪雨の被災者全ての方々にお見舞い申し上げます。大学では7月16日(日)、23日(日)の両日、学生ボランティアが朝倉、東峰村で支援活動を行いました。紫友会では、その活動に対し、在学生支援の一環として10万円を寄付いたしました。なお、被災した学生の被害状況に応じて学園としては奨学金、大学としては見舞金を贈りました。一日も早い復興を心より念じ申し上げます。

これぞ、筑女魂！ チャレンジ精神

■文学部・英語学科
二十五回生(二〇六年卒) 平千恵



何を言っているのか分からない。それが私のカナダ初日の絶望的な気持ちでした。

特に英語が得意なわけでは無いけれど、色々な国の人と関わりたいという気持ちだけで飛び込んだ留学生活。人と話しをする事に億劫になりつつも、何の為にここまで来たのかと自分に喝を入れました。私にとって異国の地で

は全てがチャレンジの連続でした。今となつては失敗も笑い話になりました。留学中に会った沢山の友人達、ホストファミリー、個性豊かな大学の先生方、支えてくれた家族、多くの人達のお陰もあり、今は仕事で毎月違う国に行き、様々な国籍の方々と関わる事を楽しいと思えます。

疲れる時もあるけれど、空の上で偶然見た雲の形と太陽の光の美しさに心とさせられて、この瞬間の景色が見れてラッキーだなあと感じます。次はどんな事があるかなと期待しながら、知らず知らずの内に私に根付いたチャレンジ精神、これぞ筑女魂。

筑女での出会い

■文学部・アジア文化学科
二十回生(二〇四年卒) 田中 宏美



私にとって筑女は様々な方面へ視野を広げるきっかけくれた場所でした。なかでも一番影響を受けたのは大学生活の中で出会ったたくさんの人達との出会いです。自分とは違う価値観を持つ人、海外志向の強い人、自分の将来を具体的に考えている人など、私の周りには個性的で、刺激を与えてくれる人がたくさんいました。

短大卒業、それから四十八年、

■短期大学・家政科
四回生(一九七〇年卒) 田中 幸子 馬場



筑紫女学園短大が福岡市高宮にあった時代に八女市より西鉄バス、電車を乗り継ぎ往復約四時間の通学を二年間ハードなスケジュールで勉学に部活(コース部)に過しました。『これぞ筑女魂?』コース部での活動では九州の大学を訪問し仲間と充実した日々を送りました。その当時が懐かしく思い出されます。

筑女の理念、良妻賢母の道を

アジア文化学科に入り、個性豊かな教授、留学経験のある先輩に出会い、実際に日本以外の国に行つてみたいと思った私は、今まで二度も海外へ行きたいと考えたことがなかったにもかかわらず、中国への語学留学を決めました。もともと周りからの影響を受けやすい性格だったこともありすが、留学するという決断をさせてくれた環境に本当に感謝しています。

社会人になり感じることは、大学時代の出会いは今後の人生の大きな財産となるということです。大学時代の友人に刺激を受けながら今後も様々な事に挑戦し、成長していきたいです。

めざし結婚し、横浜に移り住み四十三年が過ぎました。専業主婦として、会社員としても十六年間働き退職して今に至っています。横浜に来て近所に住んでいた短大国文科の後輩Mさんと四十年近くお付き合ひし福岡弁、八女弁で話しています。

さて、最近高校の同窓生とミニ同窓会で信州旅行をし、楽しい思い出が出来ました。筑女時代の仲間と昨年十一月に会う計画でしたが残念ながら次回へとなりまして、この紙面をお借りして昔の仲間との再会を楽しみにしています。

元気にしとるよ!!

◆卒業以来、初めてお便りするかもしれない。先生方の近況、学生の皆様のご活躍を知る度に嬉しくなります。これからも会報楽しみにしております。

大学日本語日文学科九回生(二〇〇四年卒)

◆大学時代の思い出が今の自分を支えてくれていました。大学へ行ったことによつて、見つけた自分の夢に向かい、今はただ勉強に励む毎日です。

大学日本語日文学科三回生(二〇〇四年卒)

◆学習支援員として働き始めて約八年。八年前に出会った生徒も二十才。我が子も大学三年生になりました。年齢は様々ですが、筑女大に通っているという子が二八知っています。

大学英語学科三回生(一九九四年卒)

◆日本航空(JAL)の国際線の客室乗務員として頑張っております。

大学人間福祉学科十四回生(二〇五五年卒)

◆高宮校舎での二年間はとても楽しいものでした。書道部に所属していました。今も全国に散らばった友人達と年賀状のやりとりをしています。高宮校舎の前にあつた寮に住んでいました。ユニークな寮母さんが思い出されます。

短大園文科八回生(一九七四年卒)

◆学園創立百十周年お祝い申し上げます。記念がくまなく読ませていただきました。卒業生としてあらゆる方面でよき方向に何かうことを祈っております。

短大園文科十回生(一九七八年卒)

◆日頃お世話になっている、檀家として、光明寺の先代住職の奥様である長谷様の「いつしか五十年」を讀ませていただきました。ご縁の繋がりを感じております。

短大園文科十三回生(一九九七年卒)

◆この春娘が現代社会学部へ入学しました。入学式では懐かしい礼拝、忘れていたと思つていた真宗宗歌もこれから歌えて自分にびっくり。自分の入学式のことはいく思い出せないと思いましたが、式中どなったかと考えていた、書道部のパフォーマンスの際、筑女を選んだ娘へのエールと喜びで涙

学部・学科一覧

文学部

日本語・日本文学科
英語学科
アジア文化学科

人間科学部 人間科学科

発達臨床心理コース
社会福祉コース
初等教育コース
幼児保育コース

現代社会学部 現代社会学科

●入試に関するお問い合わせ先

入試課 TEL 092(925)3591

学部入試のほか、短期大学卒業生を対象とした「編入学」や「社会人」を対象とした入試も行っています。詳しくは(6)ページをご覧ください。

◆この春娘が現代社会学部へ入学しました。入学式では懐かしい礼拝、忘れていたと思つていた真宗宗歌もこれから歌えて自分にびっくり。自分の入学式のことはいく思い出せないと思いましたが、式中どなったかと考えていた、書道部のパフォーマンスの際、筑女を選んだ娘へのエールと喜びで涙

◆卒業して十五年以上の年月が過ぎ、今では一児の母となりその子どもは筑女の幼稚園に通っております。入園し間もない頃、幼稚園から帰ってきた子どもが「なーもあーみーだー」と歌い出しました。自分が筑女で教わった歌を子どもも幼稚園で歌っていたことに嬉しくなり一緒に歌っていると、当時から懐かし思い出されました。

短大園文科十六回生(二〇〇二年卒)

◆「学園創立一〇周年記念炒」を送り下さり心よりお礼申し上げます。伝統ある筑紫女学園で学ばせて頂きました。ご縁を有難く感じております。後輩の皆様も五名程入社して頂き今も活躍されております。

短大英文科同生(一九六七年卒)

◆筑女を卒業してから、ちょうど一〇年が経ちました。鹿児島を離れての寮生活：ホームシックにもなり、泣いた夜もいくつかありました。それでも素晴らしい仲間、先生方、寮監さんたちのおかげで充実したキャンパスライフが送れた。あの二年間は宝物です。教職に就きましたが今は三人の手育てを楽しんでいます。

短大英文科十回生(一九九七年卒)

◆学園創立百十周年おめでとうございいます。時折「筑女魂」と勝手に名前を付けてミニ同窓会をしています。

短大家政科十回生(一九七六年卒)

◆クラス会のお手紙を同封して頂き、ありがとうございました。

短大幼児教育科十回生(一九八八年卒)

